

東北大学復興アクション —その 10 年の軌跡と未来—

東北大学 災害復興新生研究機構長 はら のぶよし
原 信義

1. 東日本大震災と東北大学

国立大学法人東北大学（以下、「東北大学」という）は、今から 114 年前の 1907 年の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念のもと、多くの指導的人材を輩出するとともに、人類の発展および豊かな未来社会の実現に向けたイノベーション創出の一翼を担ってきました。そのような長い歴史の中においても、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災という出来事は、東北大学にとって非常に大きな意味をもつ出来事でした。

未曾有の大震災は、地震と津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故等により、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。東北大学もその例外ではなく、建物や研究設備を中心に約 569 億円もの被害を受け、自らの教育・研究活動の再開のために多大な労力を割くことを余儀なくされました。

しかし、そのような混乱期にあっても東北大学は、震災直後から被災地での緊急支援活動や大病院を中心とした緊急医療支援活動を開始したほか、地震・津波に関する各種情報発信と被害状況調査、放射線モニタリング、原子炉施設内への災害ロボット投入など、それぞれの教職員の専門性を生かしたさまざまな取り組みを行ってきました

た。また、多くの学生たちが、被災地でのボランティア活動に参加しました。そして、発災からわずか 1 カ月後の 2011 年 4 月には、このような復興支援活動を推進するための全学組織として「東北大学災害復興新生研究機構」（<http://www.idrrr.tohoku.ac.jp/>）を設立しました。以来、同機構では、災害科学や地域医療、廃炉などの 8 つの重点プロジェクトを編成・始動させるとともに、「臨床宗教師」（公的な場で宗派を超越した心のケアを行う専門家）の養成や震災遺構のアーカイブ構築等をはじめとする、教職員が自発的に取り組む 100 以上の復興支援プロジェクト（復興アクション 100+）への支援を行ってきました（図 - 1）。

2. 東日本大震災が東北大学にもたらしたもの

この 10 年間、これほどまでに復興に真摯に向き合ってきた理由の一つとして、東北大学が「社会とともにある大学」であるということが挙げられます。建学当初より、民間および自治体等から多大な期待と支援を受け、社会とともに発展してきました。そして、この度の大震災では、その復旧や復興活動に多くの方々が支援の手を差し伸べてくれました。混迷の中にあってもなお、今日まで活動を続けてきたのは、そうした方々への感謝



東北大学 災害復興新生研究機構

2011年4月 設置
2016年4月 機能強化を図り、規程明文化

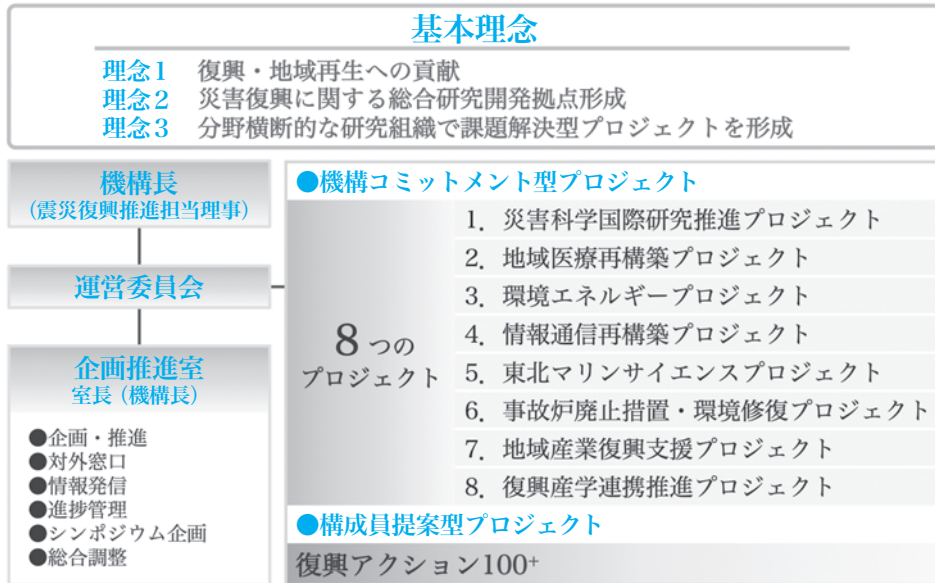


図-1 東北大学 災害復興新生研究機構の概要

の気持ちと、被災地にある唯一の総合大学としての使命を強く自覚し、また、自らのもつ多様な学知と人材力を社会へ還元することこそが、支えてくれる社会に対する一つの恩返しであると考えているからです。東日本大震災という出来事は、まさに「社会とともにある大学」という本来のアイデンティティを、再認識させてくれた重要な出来事であったといえます。

このような姿勢は、あらゆるところに現れています。東北大学は、2017年6月に文部科学大臣より指定国立大学法人の最初の3校に指定されましたが、その際、特に強みを有する研究領域として、災害科学や未来型医療等を挙げています。また、2030年までに目指すべき姿として2018年11月に掲げた「東北大学ビジョン2030」や、それを加速すべく2020年7月に策定した「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」においても、社会との共創や、あらゆる壁を越えて社会とつながることが宣言されています。

3. 震災復興にとどまらず その先の新たな時代へ

震災から10年を迎えるに当たり東北大学は、2020年7月より「震災10年の知と未来事業」(<https://tohokuuniversity-lessonsfrom311.com/>)を新たに始動させました(図-2)。この事業は、10年間に培ってきた知や経験、教訓を4つのカテゴリで総括、発信し、それらを震災復興にとどまらず世界が直面するあらゆる社会課題の解決へとつなげていくためのものです。

未曾有の大災害からの復興を経験した東北大学だからこそ、その経験と知見を、グリーンかつレジリエントで豊かな未来社会をデザインし、その実現に向けた一歩を踏み出すための大きな力として、一層発展させていかなければならないと考えています。

震災から10年を迎える今、新型コロナウイルス感染症や、頻発化・激甚化する気象災害をはじめとする新たな災害への対応、「仙台防災枠組2015-2030」、「持続可能な開発目標(SDGs)」、「パ



「震災10年の知と未来事業」概要



震災10年の知と
未来事業
Lessons from 3.11 - Toward the Future

- ◆ これまでの支援に対する感謝
- ◆ 被災と復興を通して得られた知や経験、教訓の社会還元
- ◆ 主題：「ともに生きる社会」の創造
- ◆ オンラインシンポジウム（全4回）と震災10周年の総括シンポジウムの開催
- ◆ 東日本大震災10周年記念冊子（「東北大学復興アクション」第9版）の発行

※オンラインシンポジウムは、「震災10年の知と未来事業」HPにて公開中
(<https://tohokuuniversity-lessonsfrom311.com/>)

2020.7	第1回「災害と生きる」	
2020.9	第2回「いのちと生きる」	
2021.1	第3回「地域と生きる」	
2021.2	第4回「探究と生きる」	
2021.3	東日本大震災10周年シンポジウム（予定）	



図-2 「震災10年の知と未来事業」の概要

り協定」等の世界的な取り組みへの貢献，世界の防災・減災を促進する「防災 ISO」国際規格の提案，脱炭素社会の実現へ向けた協力など，その挑戦の

場は広がり続けています。東北大学は，これからも国内外の多くの皆さまからのご支援のもと，震災復興と新しい社会の実現を目指していきます。